RCNP 研究会報告

１） 研究会テーマ：Baryons10

２） 開催日：２０１０年１２月７日―１１日（５日間）

３） 会議の内容

バリオンに関する国際研究集会（Baryons）を上記の期間コンベンションセンターで行なった。バリオン（重粒子）の構造と相互作用に関する理論・実験研究の第一人者が集まり、強い相互作用をする量子色力学（QCD）のに関する重要な問題として、クォークの閉じ込めやカイラル対称性の自発的な破れによって、物質が形成される力学機構に関する未解決の問題解明に関して活発な議論をおこなった。プレナリーセッションを4、3会場によるパラレルセッションを5、また常時ポスターパネルを用意した。176 人の参加登録、152 の講演申し込みがあった。特に南部先生を迎えることができ、" From BCS to NJL, An Old Story Retold"というタイトルで講演を行っていただいた。Proceedings を AIP から出版予定。

南部先生から会議終了後連絡を頂き、「Rochester 会議を思い出した」とのことで、とても楽しんでいただいた様子でした。1960 年の Rochester 会議で NJL のアイデアが発表された。そのとき Lipkin 氏（今回参加いただいた）が興味をもって南部先生に話しかけたところ「あなたが唯一私の話に興味をもってくれた人だ」との返事が返って来たという。南部、Lipkin 両氏とも今年 89 歳である。

５） 予算の執行状況

研究会費は日本人および外国人の若江研究者の補助に充てた。

４）組織委員：保坂　淳（阪大RCNP、組織委員長）、中野　貴志（阪大RCNP、副組織委員長）、岸本忠史（阪大 RCNP）、永江知文（京大理）、野海博之（阪大 RCNP）、清水　肇（東北大電子光）、Jung Kun Ahn（プサン大）、佐藤　透（阪大理）、岡　真（東工大理工）、兵藤哲雄（東工大理工）、慈道大介（京大基研）、熊野俊三（KEK）、菅沼秀夫（京大理）

国際諮問委員会： Stanley J. Brodsky (SLAC), Thomas D. Cohen (University of Maryland), Ken'ichi Imai (Kyoto University), Robert L. Jaffe (MIT), Anthony W. Thomas (Jefferson Lab), Wolfram Weise (University of Munich)

他30名

連絡責任者：保坂　淳、hosaka@rcnp.osaka-u.ac.jp